

森のテクノ

NO.81

秋号

2018.10.15



目次

- | | | | |
|--|---|--|----|
| ●「就任挨拶」
（一社）高知県山林協会 会長理事 大石 弘秋 | 1 | ●平成30年度（一社）高知県山林協会通常総会開催
（一社）高知県山林協会 総務部長 田島 史一 | 8 |
| ●山を診る
（株）四国トライ 事業部長 吉村 典宏 | 2 | ●第18回 森や自然についての
子ども達の作文コンクール | 10 |
| ●平成30年7月豪雨災害の被災状況報告について
高知県中央東林業事務所 森林土木課長 土居 進一 | 4 | ●テクノ ア・ラ・カルト
ー課題と対応：林道施設災害復旧を例にー
（一社）高知県山林協会 技術専門官 長澤 佳暁 | 20 |
| ●平成30年度 民有林森林土木優良工事・民有林林道
維持管理・民有林森林土木工事木材活用設計コンクールの
審査にあたって
コンクール審査委員長
高知県林業振興・環境部 治山林道課長 二宮 栄一 | 6 | ●県立甫喜ヶ峰森林公園から
指定管理者 （一社）高知県山林協会
森林環境学習チーム長兼甫喜主任 黒津 光世 | 22 |
| | | ●動 向 | 23 |



「就任挨拶」

一般社団法人高知県山林協会 会長理事

大 石 弘 秋

澄み渡る秋、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、高知県山林協会の運営につきまして、特段のご支援を賜り心より感謝申し上げます。

さて、私こと、去る 8 月 31 日に開催されました本協会通常総会におきまして、会長理事に選任されました。身に余る光栄でありますとともに、責任の重大さを痛感しております。

もとより微力ではございますが、この上は会員の皆様、役職員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、本協会発展のために誠心誠意取り組んでまいる所存でございますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

高知県は森林率 84 パーセントを誇る森林県であり、戦後植栽されました人工林は年々その成熟度を増してきております。

この森林資源を有効に活用するとともに、森林の持つ様々な公益的機能を高度に発揮させるためには、森林整備を着実に進めていかねばなりません。そのためには林道や作業道などの路網の充実が不可欠であります。

また、防災面では、近年、豪雨や地震などによる自然災害の報道に接さぬ年はないと言っても過言ではありません。山地災害を未然に防止し、人命、財産を守るための継続的な治山対策が必要と考えます。

ご案内のように、戦後、高知県の森林土木行政とともに歩んでまいりました本協会は、昨年、設立 70 年の節目を迎えました。

この間、初期の予算獲得のための期成同盟的な組織から変遷し、現在は、治山や林道などの森林土木部門のコンサルタント業務を主体とする収益事業と、県民の皆様に森林の大切さを理解して頂くための公益事業を、活動の両輪として取り組んでおります。

今後も、高知県の山々を守るため、技術力の研鑽に努めながら、役職員一丸となって取り組んでまいりますので、会員の皆様はもとより、国、県、並びに関係各団体の皆様方には、どうか本協会の事業活動にご理解をいただき、力強いご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、就任のご挨拶といたします。



山を診る

(株)四国トライ 事業部長 吉村典宏

1. はじめに

自然が引き起こす土砂災害は、意外と同じ場所で繰り返し発生しています。それは、簡単に言えば土砂災害を起こしやすい地層がそこにあるため、地盤を構成する地層の特性や構造を反映しているからに他なりません。つまり、地層は土砂災害の大きな素因ということになります。そして、その地層を反映して作られたものが地形となるわけです。この「山を診る」と題した技術講座は、長い年月の中で造られた土砂災害の「痕跡」をテーマにして山の見方を学んでいただくものです。平成16年の早明浦豪雨、平成23年の北川村を襲った台風6号、平成26年の大豊町周辺を襲った台風12号、11号、そして本年7月の西日本を襲った豪雨などは高知県に地すべり・崩壊・土石流などによる大規模な土砂災害をもたらしました。今回は、その内の土石流について話をすすめていきたいと思えます。

2. 土石流とは

土石流は、法令上は「山腹が崩れて発生した土砂又は溪流の土砂が水と一体になって流下する自然現象」と定義されています。流れ下る速度は、時速40kmに達するとも言われ避難するのが困難な場合が多く大きな被害につながったりします。

3. 発生のメカニズムについて

3. 1 基本的なメカニズム

発生のメカニズムについて大きくは、1) 溪流に堆積する不安定土砂に多量の表面水が供給され流動化する場合。2) 山腹崩壊で生じた土砂が溪流に流れ込み流動化して土石流になってしまう場合。3) 地すべりや崩壊等により溪流が一時的に閉塞し天然ダムを作ってそれが決壊して土石流になってしまう場合、に区分される事が多

いようです。

いま少し踏み込んで読み解くと、1) の溪流に堆積する不安定土砂については、潜在的に土砂生産が活発な区域であることを意味します。基本的には脆弱な地層域ということになり断層や破碎帯、風化し易い地層帯が分布する所で生じやすい事を意味します。四国では中央構造線から南の西南日本外帯の多くが、プレート運動に伴って形成された付加体地質にあたり破碎された地層が多く分布する場であることを踏まえると、どこでも発生する可能性を秘めており、早明浦豪雨被害はその典型ともいえます。2) の山腹崩壊に伴うものは、山腹崩壊につながる要因を抱えている場となります。山腹崩壊のメカニズムについては様々ありますが、基本的に応力開放となる脚部浸食が活発に行われている場所や行われていた場所での可能性が高く、深い谷地形が発達する場所ということになり、北川村平鍋地区で発生した土石流もその1つです。3) の地すべり・崩壊等による天然ダムの決壊は、河道閉塞が生じやすい地形、例えば深く切れ込んだ谷幅の狭い場所などが発生し易い場となり、高知県では大豊町南小川流域のものが名高く、吉野川との合流点に堆積する緑色岩類の転石群はその痕跡と言われています(写真1参照)。

写真1 土石流の痕跡を残す大豊町豊永の河原¹⁾

3. 2間接的要因について

土石流の発生要因として、近年では次のようなものが多いように感じます。ひとつは、小道や道路の排水処理、ひとつは人工林における倒木です。**図.1**は排水処理を要因としたメカニズムです。これは、ある現場で発生した土石流を模式的に描いたものですが、山腹の谷部を通する林道の暗渠が流送土砂で覆われ、それによって越流した谷水が道路に沿って走り、尾根部分で斜面に流れ出して崩壊を発生させ、その土砂が下方の溪流に至って土石流を発生させたものです。道を下る流水は、カーブを曲がりきれず尾根斜面に入ります。谷から離れる尾根部分は、表面水による浸食が乏しいため厚くて強度の小さい風化土層を形成していることが多く、そこに大量の表面水が供給されるため規模の大きな崩壊に発展していくことになるのです。

近年では林業の省力化・機械化が進む中で林道や作業道などが網目のように整備されるようになっていますが、その一方でこのようなリスクを多く抱えるようになってきています。



図.1 土石流発生の一要因

また、発生した土石流は、管理が行き届かない溪流沿いの倒木や立木を根こそぎなぎ倒し、流れ下りやがて土砂を巻き添えにした天然ダム



写真2 流木で塞められた溪流を作ります。**写真2**はその事例ですが、やがて大きなエネルギーを溜めて決壊し甚大な被害を下流に与えてしまうのです。**写真3**は、土石流によって運ばれた巨石群ですがそのエネルギーの大きさを計り知ることが出来ます。



写真3 土石流が運んだ巨石群

4. 土石流の痕跡をみる

地理院地図を使ってその痕跡を覗いてみます。

図.2は、日本三大崩壊の1つ、室戸市カナギの潰がある佐喜浜川の上流域の地図です。地理院地図の傾斜量図で見ると、山間にあって異様に広い谷幅、狭長な谷底平野の形成が見て取れますが、これが土石流による埋積谷です。活発な場ではこのような痕跡を残すので、安全性確保という意味で地図を活用することも重要となります。



図.2 土石流発生の一要因²⁾

5. 最後に

土石流は、どこでも起こる可能性があります。その誘因は様々ですが、近年では山腹を横切る小道や道路からの表面水が斜面にあふれ出し、発生させているものが少なくないと感じます。特に、厚い風化土が残る尾根沿いでは、浸食され易い土量が多いため道路からの越流などにより浸食が始まると規模を容易に拡大していきます。また、管理の行き届かない山々が増える中、流路を覆う倒木などが増え、それが天然ダムを作り破綻して思わぬところにまで被害を拡大させる要因にもなっています。それを防ぐ或いは軽減するためには、普段からの表面排水路の維持管理を如何に行うのかはもちろんですが、人的要員の減少が避けられない現実からすれば、リスクを予測し避ける排水処理構造の創意工夫も一層必要になっていると考えます。

—参考資料—

1) グーグルアースに加筆 2) 地理院地図に加筆

平成30年7月豪雨災害の被災状況報告について

高知県中央東林業事務所 森林土木課長 土 居 進 一

本年6月末から7月初めにかけて台風7号と梅雨前線による豪雨により、大豊町や香美市を中心に広範囲で大規模な森林被害や林道被害が発生しました。

そこで当事務所管内で発生した被害状況を紹介します。

まず①の写真ですが、皆様も新聞やテレビなどでご存じとは思いますが、大豊町内を走る高速道路の立川橋が落下した箇所です。

現在高知道は、下り線を利用し対面通行となっており、今年の盆には渋滞が発生しました。

また事故の危険性もあることから、上り線の早期開通に向け、崩壊地の復旧に取り組んでいるところです。



他にも大豊町では、この立川流域での被害が甚大で、多くの崩壊箇所がありました。

その中の一部を紹介します。

写真②は、山腹崩壊が2箇所発生しております。下方には、森林基幹林道奥大田三谷線が通っており、また右側の崩壊地の上部には人家があり、非常に危険な状況です。

写真③は、崩壊した土砂を治山ダムが、一定捕捉していますが、それ以上の土砂が、人家にまで流出しています。

写真④は、写真②で紹介しました、森林基幹林道奥大田三谷線の被災状況です。流出した土砂で河床

が上がり、また流出木も多く、通行不能となっていました。

現在は、応急仮工事等を行い工事車両は入れる状態となっています。



森のテクノ

次に香美市の被害状況を紹介します。

香美市では、主に旧物部村に被害が集中しています。

被災地の中でも、主要幹線道である国道 195 号沿いでは、山腹崩壊による土砂の流出や路肩決壊等で、何箇所も通行止めとなるなど、現在でも地元住民等の生活に不便を来しています。

写真⑤は、その国道 195 号須賀井トンネル入口の路肩が決壊し、一時通行止めとなった箇所です。

写真⑥は、山腹が崩壊し下方の市道橋が流出しました。

写真⑦も山腹が崩壊し、山腹上部にある市道も決壊しています。



(市道)

その他の市町村の被害箇所についても紹介します。



【大川村朝谷地内の山腹崩壊】



【香南市の林道畑山奥西川線の法面崩壊】



【本山町の林道蛇ヶ野線の地すべり性崩壊】

この度の7月豪雨では、管内全ての市町村で、被害が発生しております。

このことから、災害関連緊急治山等事業や林道施設災害復旧事業により、1日でも早く復旧を行い、県民の生活が元に戻るよう努めて参りたいと考えております。

平成 30 年度 民有林森林土木優良工事・民有林林道維持管理・ 民有林森林土木工事木材活用設計コンクールの審査にあたって

コンクール審査委員長

高知県林業振興・環境部 治山林道課長 **二 宮 栄 一**

一般社団法人高知県山林協会主催による、平成 30 年度森林土木優良工事等コンクールが開催され、去る 8 月 31 日の山林協会通常総会において入賞者が表彰されました。

本年度、コンクールの対象となった森林土木工事は、平成 29 年度中に完成した民有林治山工事 58 件、民有林林道工事 18 件でした。また林道維持管理部門は、県下 983 路線のうち供用開始後 3 年以上経過し、延長 2,000 m 以上のものが対象となりました。この中で、各林業事務所長から推薦のありました工事及び路線を厳正に審査しました結果、優良工事治山部門 18 件・林道部門 6 件、林道維持管理部門 2 件、木材活用設計部門 3 件、計 29 件を入賞とし、表彰することに決定いたしました。



久保川 NO.2 林地荒廃防止工事

表彰を受けられた皆様方に改めてお喜びを申し上げますと共に、それぞれの部門での真摯な取り組みに対しまして心から敬意を表します。

優良工事の審査に当たりましては、工事の出来栄を中心に、施工技術・施工管理の適否等を選考基準にしました。加えて、近年の環境保全に対する関心の高まりの中で、自然環境に配慮した工法や施工方法が求められており、環境への配慮や周囲の自然景観との調和がとれていることも審査のポイントに

なりました。さらに、県産木材の利活用が、間伐を推進し森林の各種機能を高めると共に、県内木材関連産業の振興にも寄与することから、木材を積極的に活用した工事についても評価をしました。



江川別役線 1 工区工事

次に、林道維持管理部門では、路線が適正に維持管理されていることに加え、市町村及び地域住民の方々が維持管理に積極的に取り組まれていることなどを評価のポイントに審査をしました。



清水三原線

最後に、木材活用設計部門では、工法の技術的な合理性、景観や自然環境との調和、県産木材活用への寄与などを総合的に判断し評価をしました。



長浜防災林造成工事

公共事業の品質を確保し、優良な事業者を育成するため、近年は企業の皆様方の施工技術や施工方法そのものが、仕事の受注に影響を与えるようなシステムになってきています。施工者の皆様方におかれましては、今後とも技術力の研鑽や施工方法の創意工夫、工事を通じた地元貢献に努められ、目的物を立派に仕上げていただきますようお願いいたします。

さて、全国各地で集中豪雨などにより多くの山地災害が頻発し、特に6月末から7月にかけての西日

本豪雨では本県や広島県、岡山県をはじめとする15府県で200人を越える尊い人命や財産が失われる甚大な被害が発生しました。加えて100年から150年の間隔で発生するとされる南海トラフ地震でも多くの山地災害が予想されます。これらの懸念の中、県民の生命財産を守り、県土を保全するため、治山対策をさらに進めて行く必要があります。

林道は第3期産業振興計画にて進めている原木生産をさらに拡大するためや、森林吸収源対策となる森林整備をおこなうための、林内路網の基幹となります。さらに国道や県道・市町村道が災害のため通行止となった際には迂回路として役割を果たし、地域生活に欠かせない施設です。

森林土木事業は、県民の安心・安全や林業の振興・成長産業化の礎となる事業です。今後も、森林土木事業へのご理解と事業の推進へのご協力をお願いしまして、簡単ではございますが、審査報告とさせていただきます。

民有林森林土木優良工事コンクール受賞者一覧 (治山の部)

与床予防治山工事	株式会社 四国ネット
下尾川復旧治山工事	有限会社 丸共工業
下尾川復旧治山工事	有限会社 サンロック
蔵ヶ谷復旧治山工事	有限会社 山中建設
西川地すべり激甚災害対策特別緊急工事	有限会社 ムクタ工業
菖蒲治山激甚災害対策特別緊急工事	尾崎建設株式会社
笹復旧治山工事	有限会社 中山建設工業
中尾谷復旧治山工事	有限会社 武政建設
高川治山激甚災害対策特別緊急工事	明治建設有限会社
朝倉西予防治山工事	高陽開発有限会社
脇ノ山災害関連緊急治山工事	有限会社 手箱建設
川ノ内治山激甚災害対策特別緊急工事	株式会社 晃立
舟床復旧治山工事	大川建設株式会社
上折渡復旧治山工事	岩井建設株式会社
広野復旧治山工事	杉本土建株式会社
北の川予防治山工事	株式会社 四国ネット
久保川 NO.2 林地荒廃防止工事	有限会社 松元建設
大宮予防治山工事	株式会社 シマント

民有林森林土木優良工事コンクール受賞者一覧 (林道の部)

林業専用道江川別役線 1 工区工事	株式会社 興国建設
森林管理道中芸北上線工事	有限会社 松本工業
森林基幹道寒風大座礼東線 1 工区工事	有限会社 山中建設
森林基幹道下土居松谷線 1 工区工事	栄宝生建設株式会社
森林基幹道土居柳野線 1 工区工事	株式会社 四国ネット
幹線林道中村・大正線 3 工区工事	豚座建設株式会社

民有林林道維持管理コンクール受賞者一覧

河口落合線	香美市
清水三原線	土佐清水市

民有林森林土木工事木材活用設計コンクール受賞者一覧 (治山の部)

板木林地荒廃防止工事	前田 凌
長浜防災林造成工事	安藤 悠太
脇ノ山災害関連緊急治山工事	中川 賢

平成30年度(一社)高知県山林協会通常総会開催

一般社団法人高知県山林協会 総務部長 田 島 史 一

高知県山林協会の平成30年度通常総会が、8月31日、ザ クラウンパレス新阪急高知に於いて、高知県からは知事尾崎様を始め治山林道課長二宮様、各林業事務所長様、県議会からは副議長坂本様、林野庁からは治山課長大政様、四国森林管理局長野津山様、一般社団法人日本治山治水協会・日本林道協会からは専務理事津元様、高知新聞社からは営業局長小松様、高知県森林組合連合会会長戸田様を始めとする友好団体代表の皆様、国政からは、参議院議員中西祐介様、衆・参両院各先生方の秘書の皆様、など大勢のご来賓の方々のご臨席を賜り、会員（市町村・森林組合）多数参加のもとに開催されました。



開会にあたり上治会長から「7月には、数十年に1度という豪雨で、西日本各地において未曾有の大災害となり、200名を超える尊い命が失われました。

本県でも3名の方がお亡くなりになり、また、多くの方々が被害を受けられました。

犠牲になられました皆様のご冥福をお祈り致しますとともに、被災者の皆様方に、心からお見舞い申し上げます。

また、高知自動車道の橋桁の消失など、公共施設にも、甚大な被害がありました。

林業関係も例外でなく、山地災害が多数発生していますし、林道施設にも多大な被害がでております。

山を守り、県民の生命・財産を守る治山対策の充実と、災害に強い山づくりのための林道の必要性をあらためて認識しているところです。

いずれにしても、早急な復旧が待たれるとこ

ろですが、当協会も、災害直後から、県当局、また会員の皆様からのご要請を受け、山地災害の復旧計画や、林道施設災害の復旧計画に、職員一丸となって、取り組んでいる最中でございます。

本日ご列席の皆様方におかれましては、どうか当協会の事業活動にご理解をいただきまして、今後とも、力強いご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

次に、本日の表彰行事についてご報告申し上げます。

まず、第18回目を迎えました「森や自然についての作文コンクール」には、県内26の小中学校から、240点余りにのぼる、ご応募をいただきました。

作文の審査に当たりましては、高知新聞社営業局長小松様を委員長とする審査員の皆様方には、大変お世話になりました。心より、お礼を申し上げます。

本日、表彰を受けられます小・中学生の皆さん、本当におめでとうございます。



作文に込められました「思い」を、これからも持ち続けていただきますよう、お願いをいたします。

次に、「民有林森林土木優良工事」等の各コンクールを本年度も実施いたしました。

審査に当たりましては、県の治山林道課長二宮様を委員長とする審査員の皆様には大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

本日、表彰を受けられます企業の皆様、まことにおめでとうございます。

平素からの並々ならぬご努力とご苦勞に対しまして、深く敬意を表しますとともに、今後益々の社業

のご発展と、地域へのご貢献を継続されますことを祈念いたします。

次に平成29度の決算状況についてご報告します。一般社団法人への移行により、義務づけられております公益目的事業につきましては、本年度も、計画どおり実行することができました。

また、コンサルタント事業につきましては、県や会員の皆様からの測量・設計等の委託業務を順調に受注できましたことにより、まずまずの決算をあげることができました。

本席をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。

公私ともに極めてご多忙な中、ご臨席賜りました関係各方面の皆様方に、重ねてお礼申し上げ、開会のご挨拶といたします。」との挨拶がありました。

続いて表彰式が行われ、森林の重要性や山村振興と森林整備事業の啓発を目的とした「森や自然についての子ども達の作文コンクール」では、山の大賞（最優秀賞）を受賞した子ども達を表彰しました。

このコンクールが、夏休みの思い出の1つになればと思います。

ご家族の皆さんにもご参加頂き、大変和やかな表彰式となりました。



続いて、民有林森林土木優良工事・林道維持管理・木材活用設計の各コンクール表彰が行われ、優良施工業者と香美市並びに土佐清水市、県職員の方々が表彰を受けられました。

ご来賓として出席頂いた高知県知事尾崎様、高知県議会副議長坂本様、林野庁治山課長大政様、四国森林管理局長野津山様、参議院議員中西祐介様、一般社団法人日本治山治水協会・日本林道協会津元専務理事様からご祝辞を賜りました。

休憩の後、議事に移り、議事では平成29年度事業報告及び収支決算、平成29年度公益目的支出計

画実施報告書、平成30年度事業計画及び収支予算など7議案が原案通り承認されました。



役員の選任では、平成13年に監事に就任以来、平成18年に理事、平成22年からの8年間は会長理事を務められ、協会発展のためご尽力を頂いた上治堂司氏（前馬路村長）が退任され、上村誠北川村長（現監事）が理事に、山崎出馬路村長が監事にそれぞれ就任されました。

また、総会終了後の理事会において、大石弘秋仁淀川町長（現副会長理事）が会長理事に、池田三男津野町長（現理事）が副会長理事に新たに選定されました。

最後に、次の事項が決議案として提案され、満場一致で採択されました。

- 一、国土の保全と国民生活の安全を図る治山対策の積極的推進
- 一、森林の整備や中山間地域の活性化と生活環境の改善を図る路網整備の積極的推進
- 一、森林・林業・木材産業振興策の積極的推進
- 一、公有林経営の健全化の推進

総会終了後の懇親会には、高知県林業振興・環境部長田所様を始め林業振興・環境副部長川村様、林業環境政策課長坂本様、森づくり推進課長櫻井様、木材増産推進課長岩原様、木材産業振興課企画監谷脇様、治山林道課の幹部の方々、四国森林管理局技術普及課長濱本様、高知林業土木協会長山下様にもご参集頂き、大変ご多忙の中ご参加頂いた参議院議員高野光二郎様からは、ご祝辞を賜り、皆様のお陰様をもちまして、盛会裡に終了することができました。

第18回 森や自然についての子ども達の作文コンクール

審査委員長講評

高知新聞社 営業局長 小松 誠 昭

自然についての疑問や比較を

「自然に感謝しなければ…」と書き綴っていました。その美しさに感動したり、遊びが楽しかったり。本心からそう思っています。また「自然を壊さないで」と訴え、「ゴミを捨てないで、ゴミ拾いしようよ」と呼び掛けている子どももいました。未来に残したいという切実な願いからです。

子どもたちの作品に接すると、ついつい自分の小学校・中学校時代を思い出します。そして、その頃に遊んだ場所に行きたくもなります。記憶を呼び起こす力が、作品にあふれているからでしょう。

高知県は森林率 84%、川に恵まれ、南には海が広がっています。幼い時には自然に親しみを持ち、戯れることが大切です。成長するに従って、「疑問」を持つこと、「比較」することを心掛けてほしいと思います。

そうすれば、先生に教えてもらったり、自分でも調べてみると、自然への思いが変化してきます。今まで見ていた山や川、海が、また違った意味を持ち、風景までもが変わってきたように感じます。

今年も日本各地で、自然の脅威を感じる災害がありました。自然は怖さと美しさの二面性を持ち合わせています。ただ、魅力たっぷりの自然は、確実に子どもたちをとりこにしています。



山の大賞（高知県山林協会会長賞）

小学校の部

低学年の部

大きくなあれヤブツバキ

土佐清水市立足摺岬小学校 二年 ^{ひら}平 ^お尾 ^み美 ^く空

わたしのすんでいる足ずりみさきは、みどりがいっぱいです。足ずりみさきは、白いとうだいとヤブツバキがゆうめいですが、今、メダケがどんどんふえています。

だから、足ずりみさきのヤブツバキをまもろうと「ヤブツバキさいせいプロジェクト」がはじまって、わたしもさんかしています。

きょ年、春のえん足でクイズに答えてヤブツバキのべんきょうをしました。九月二十六日、みんなでヤブツバキのたねをひろいにいきました。水が入ったバケツにたねを入れて、しずんだたね五百三こをうえました。わたしは、プランターに三十三このたねをうえました。あさがおみたいにめが出ると思っていたら、ぜんぜん、めが出てきませんでした。

十二月になってもめは出てきません。わたしは、ヤブツバキのたねのいのちをまもって、花いっぱいになりたいので水やりをがんばってつづけました。

三月、二本だけめが出ました。わたしのは、出てこないのかな。早く出てきてほしいと思いました。

四月、二年生になってプランターを見ました。つまようじみたいなめが、一本出ていました。あさがおは、ふたばがついていたけど、ヤブツバキのめにはふたばはついていません。わたしはうれしかったです。まい日、もっと出てくるかなと思っておせわをしました。

五月から、みんなのヤブツバキのめがつぎつぎ出てきました。まいしゅうめを数えるのが楽しいです。わたしは、三十三こえて二十九こめが出ました。大きくなあれ、大きくなあれとこえをかけています。今、ヤブツバキのはっぱが四まいになりました。

わたしは、ヤブツバキをがんばってそだてたいと思います。もっともっと大きくそだって、足ずりみさきをきれいなヤブツバキの花でいっぱいになりたいからです。

コメント

足摺岬のヤブツバキを守るため、その種を育てている美空さん。種を植え、芽が出てくるかどうか不安な気持ちと、早く芽がでてほしいという期待の様子を、うまく表現していました。ぜひ、岬をヤブツバキの花でいっぱいにするよう、これからも頑張ってください。

中学年の部

きれいな水の穴内川

大豊町立おとよ小学校 三年 ^{なか}中 ^{がわ}川 ^{こう}煌 ^が牙

ぼくたち三・四年生は、五月二十九日に、ちアユのほうりゅうをしました。

その日は、みんな朝からワクワクしていました。

穴内川に着くと、早明浦ダムの人やぎょきょうの人たちがまっいてくれました。

始めに、水のけんさをしました。早明浦ダムの人がやり方を教えてくれました。ぼくは、（できるかなあ。水は、きれいかなあ）と心配でした。おじさんのせつ明が終わると、スポイトをわたされました。やってみるとかんたんに出きました。水の色は、緑色になりました。緑色は、水がきれいだという色だったので、ぼくの心ばいは、ふっとびました。

もう一つ、COD というけんさをしました。川の水を入れて軽くふると、ピンク色になりました。それも、川がきれいということでした。ぼくは、アユがすみやすい川だということが分かって安心しました。

次は、いよいよちアユのほうりゅうです。バケツに少し水を入れて、おじさんにわたすとアユを入れてくれました。アユは、とっても元気でピチピチはねて、バケツからとび出しそうでした。ぼくは、いそいで、川の中に入って、そうっとにがしてあげました。アユたちは、よるこんで泳いでいきました。川の水は、つめたくて気持ちがよかったです。

ぼくは、何回もにがしました。全部元気に泳いでいきました。さいごの一ぴきをにがす時、（大きくなってもどってきてね）と言いました。

おじさんが、

「あな内川の水がきれいなのは、まわりに森林があるからだよ。」

と、教えてくれました。ぼくは、大豊町は周りを山々にかこまれているから、アユがすめるきれいな川になっていることがわかりました。だから、きれいな穴内川を守りたいです。

コメント

3、4年生での体験学習の一日を文章にしてくれました。穴内川の水質検査では、きれいなことが証明され、その安心感が伝わってきました。また鮎の放流の場面も生き生きと書いていて、その場にいるような感覚になりました。回りの森林と穴内川を守ってください。

中学年の部

山のおいしいもの

大川村立大川小学校 三年 ^{にし}西 ^{はら}原 ^{まい}舞 ^か香



大川村は緑の山が多くて、山には食べられる物もあります。

わたしが通っている小学校の近くのフェンスにむかごがありました。いっしょに歩いていた友だちが、

「あ、これむかごや。」

と言ったので見てみたら、フェンスにつるがまきついていて、ビー玉ぐらいのむかごがたくさんありました。二、三こつながっているものもありました。

わたしはかた手に持てるくらい取りました。口に入れると、ねばねばしてきました。シャキシャキしておいしかったです。

帰り道、木につるがまきついているのを見つけたこともあります。大きなむかごでした。

近所に料理が上手なおばさんがいます。よくおかずなどを作って持って来てくれます。前、むかごごはんを持って来てくれました。家ぞくでばんごはんに食べました。わたしはむかごが大好きなので、おかわりをして食べました。むかごがいっぱい入っていてとてもおいしかったです。

小学校の近くの草が生えている所に、野いちごがありました。大きいハートの形の葉っぱの後ろに赤いものがかくれていました。はじめはへびいちごかなと思ったけど、友だちが、

「野いちごはつぶつぶがいっぱいで、へびいちごは丸くつながっていてぼこぼこしてる。」

と教えてくれました。野いちごを一つ取って食べてみると、口の中でぷちぷちとつぶがわれているみたいでした。あまずっぱい味がしました。野いちごが大好きな友だちに、たくさん取ってあげました。わたしの手に野いちごの色がつきました。

わたしは、山にあるこんなおいしい食べ物をさがすのがとても楽しいです。

コメント

大川村の自然の中にある「ムカゴ」と「野イチゴ」のことを、書いてくれました。ムカゴご飯は「おいしくて、おかわりしました」、野イチゴを取ったときには「手に野イチゴの色が付きました」などの表現が、作品の良さにつながり、楽しく読ませてもらいました。

中学年の部

山のきれいな水

高知市立高須小学校 四年 小^こ松^{まつ}香^か穂^{のん}

おじいちゃん、おばあちゃんの家の前には山がいっぱいあります。その山のふもとには、川があって、私は、夏になると毎年この川で遊びます。その川には、いつも、赤色のきれいなカニがいっぱいいます。その川の水を、手ですくってみると、とうめいで、きれいでした。川の水を飲んでみると、いつも飲んでいる水道水とは、少しちがう味がしました。山の水は、おいしかったです。この川には、おじいちゃん

と来ているけど、いつもおじいちゃんは

「山の水はきれいで、えいね。」

と言います。この川には、おじいちゃんもお母さんも、子どもの時に遊んでいて

「昔も今も、ぜんぜん変わっちゃあせんあ。」

と言っていました。この山の水は、他にも、おじいちゃんの、田んぼの水として使われています。田んぼでは、お米を育てています。

私が

「どうして水道水やないが。」

と聞くと、おじいちゃんは

「山の水はね、カルキが入ってなくてきれいな水ながよ。」

と、答えてくれました。山は、いろいろなはたらきをしてくれています。川の水、田んぼの水は、すべて、雨がふって、山の木が雨水をすいこんで、山のふもとに水が流れてきているからです。でも、もし、山がなかったら、雨がふっても、すいこんでくれる木がないから、大こう水になってしまうのです。このようにして、山は、いろいろなはたらきをしてくれています。私は、これから、みんなが、森林を大切にして、高知県が、自然いっぱいの高知になってほしいです。

コメント

自然に囲まれたおじいちゃん、おばあちゃん家の近くには川が流れ、そのきれいさが伝わってきます。飲んでもおいしいし、田んぼで稲も育てて、生活の一部になっているようです。おじいちゃんとの会話も散りばめていて、作文がぐっとよくなっています。

高学年の部

自然たちのドラマ

南国市立久礼田小学校 六年 ^{たか}高 ^{はし}橋 ここあ

三年生の頃。私が写した一枚の写真が新聞にのりました。学校の校門に立つ一本の木の写真で、私達はその木をおばあちゃんの木と呼んでいます。とても大きくて温かいふんいきで、私はその木が大好きです。

ある日、その記事を見てくれたおばあさんが学校にたずねて来てくれました。何か病気をかかえていて、写真で見たおばあちゃんの木に会いたくなつたと言います。その人はしばらくの間、手を合わせておばあちゃんの木をじっと見つめています。その光景はまるで、その人と木が会話をしている様でした。

ちょうどその頃、妹が保育園で森は生きているという歌を習っていて、家に帰るとよく口ずさんでいました。

「森と空を私は見た。生きているものたちの笑う声 話す言葉」

この歌詞の部分が私は大好きです。ふだん何気なく見ている木や空、雲に至るまでみんな命があつて、気持ちもある。言葉を話す人間だけに感情があると思っているから自然を大切にしない。それはとても悲しいことです。

木々の中には姿を変えて、私達の生活によりそってくれるものもあります。家の柱や紙、おはしなど、新しい命となって私達の暮らしを支えてくれます。決してすぐに使い捨てない様、愛情を持って使っていかなければなりません。お金で買えば、次の新しい物が手に入る。そんな考えこそ捨てなければいけません。それが、自然や動物、全ての命を大切にする事につながっていくと思います。

一見、緑一色に見える山や森にも、たくさんの草木が暮らしていて、それぞれに色々なドラマがあるのかもしれません。必要以上の開発や木のばっ採で起こる山崩れやこう水は自然達の涙なのかもしれません。もっと自然の声に耳をすませよう。私はその事をおばあちゃんの木から教えてもらった気がします。

コメント

学校の校門にあり、親しみを込めて、また家族のように接してきた「おばあちゃんの木」。それにまつわる出来事を巧みに紹介しています。また自然のあらゆる物にも命があると考え、大切にしよう、愛情を持とうと訴えている作品に感心させられました。

高学年の部

パワーをもらう若葉の季節

大豊町立おおとよ小学校 六年 ^{かみ}上 ^{むら}村 ^{ゆみほ}由美保

わたしは、大豊町に住んでいます。大豊町は、周り一面が山に囲まれた町です。

わたしが一番好きな季節は、五月の若葉がしげるころです。特に今年は、今まで以上にそう思いました。

春の桜の季節も好きです。山々のあちこちに桜の花がさいて、国道三十二号線沿いがはなやかになって大田口の子ども教室に向かうバスの中にも花びらが入ってくるほどでした。

でも桜の花が散った後の若葉の頃が一番好きです。

黄緑色の若葉が野山にしげると、わたしに、

「さあ、がんばって。」

と、声をかけられているように聞こえて、心も熱くなり元気がでできます。今年、六年生になって、いつもの年よりさらにやる気ができました。目の前には、修学旅行もあり最上級生になったんだという自覚も芽生えました。

野山が春を迎えるころ、いろいろな山菜がとれます。私は、山菜が大好きです。給食にもよく出てきます。お母さんも山菜料理をよく作ってくれます。特にぜんまいやわらびが好きです。この山菜料理も私にパワーをくれます。

おばあちゃんが、茶つみをして、いった新茶も私にパワーをくれます。おばあちゃんのお茶は香りがよくて体中にお茶がしみわたります。朝そのお茶を飲んで、登校します。(元気に勉強してきいよ)とおばあちゃんの声が聞こえてくるようです。

わたしは、秋から冬になると外が暗くなり気持ちが落ちこんできます。五年生の時もそうでした。

でも来年新緑の季節には、中学生です。

今年は、このパワーを持続させて、一年間元気に過ごし、卒業式を迎えたいと思います。

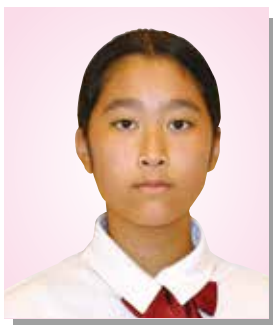
コメント

自然に囲まれた大豊町で育った由美保さんが、自然へ感謝する心が絶妙に表現されています。特に新緑の季節は、学年が一つ上になった季節と重なり、若葉から「頑張れ」と声援を受けているようだと書かれています。自然がパワーの源ということが分かりました。

山の大賞（高知県山林協会会長賞）

中学校の部

身近な自然の価値

いの町立吾北中学校 一年 ^{かわ}川 ^{むら}村 ^み美 ^ゆ由

私の家の食卓には、祖母が畑で作った美味しい野菜が並びます。吾北の豊かな自然の中で作られた野菜は本当においしくて、いくらでも食べられます。

私は、四月の中学校入学を機に、父の故郷であるいの町吾北に引っ越してきました。吾北に来る前は、大都市である横浜市に住んでいました。横浜市では、朝から車の音がひっきりなしに聞こえてきます。駅には大勢の人がバスや電車が来るのを待っているし、信号がたくさんあるので、どこへ行くにも時間がかかりました。当然きれいな川もありませんし、道路の脇の歩道には植えられた木がある程度です。人が多くてごみごみしているし、道行く人はみんな何かにせかされるように急いでいます。空気は汚れていて、なんとなく朝から気持ちが疲れているような気分になっていました。普段の生活の中で自然と触れ合う機会がないので、小学校では「田植え」の授業があったり「稲刈り」の授業があったりしました。しかし、その田んぼもいつの間にか道路に変わってしまいました。私の家の近所には公園がありました。その公園は人工的に自然を残そうとしている場所でしたが、それでもベンチに腰かけてひと眠りするのとはとても心地がよかったです。

高知に引っ越すことになって、祖父母と両親との五人で吾北での暮らしが始まりました。小学校の時、長期の休みには両親と吾北を訪れることもありましたが、実際に暮らし始めてみると改めて自然の良さを実感することになりました。空気はおいしいし、川のせせらぎが聞こえてくるし、夜には虫の声も聞こえてきます。横浜市では考えられないことです。中学校の教室の窓からも雄大な自然を目にすることができます。横浜市の小学校ではビルしか見えませんでした。休み時間に外の景色を見ていると、何とも言えない心地いい気分になります。また、吾北中学校は至る所に木が使われていて、校舎の中にいることがとても心地いいです。給食は、吾北で作られた野菜が出され、とてもおいしいです。水がいいせいだと思います。私は吾北に来てから野菜のおいしさに気づき、カレーに入っているナスが食べられるようになりました。きゅうりも好きになりました。転入してきた私をクラスの友人たちは温かく迎え入れてくれました。優しくて元気な人が多いのもこの雄大な自然の中で毎日生活しているからだと思います。

一学期には、授業でバスツアーに行ったり紙漉き体験に行ったり、ラフティングに行ったりと、大自然を満喫できました。特に、ラフティングでは、仁淀ブルーと呼ばれる美しい川に感激しました。魚が泳いでいるのが見えるのです。これらはすべて吾北の雄大な自然のおかげだと思います。私は、吾北が大好きです。ビルはお金を出せば建ちますが、吾北の自然はお金を出しても作れません。何百年もかけてこの自然を守ってきた人たちに感謝し、私は、今日も自然の価値を実感しています。

コメント

横浜市から吾北に引っ越してきた美由さんだからこそ、吾北の自然の良さや価値が、より実感できたと思います。自然を満喫している姿も文章から想像できます。都会と違って、自然の心地よさ、そして人の心の温かさまでを実感しているようです。

中学校の部

夜空が教えてくれたこと

南国市立鳶ヶ池中学校 三年 ^{たけ}竹 ^だ田 きらら

私は夜が大好きだ。人通りが少ないかわりに、森が見守ってくれている登下校の道。部活が終わり、その道を通る時はいつも空は暗く、太陽も仕事を終えている。そんな夜、危ないことなんか忘れて、自転車に乗ったまま空を見上げた。空には多くの星がこの夜を待っていたかのように輝いていた。特に興味もないのに、その日はなぜかとても感動した。

庭に自転車を止めてすぐに家の中かけこんだ。寝ている兄を起こして

「ねえ！星めっちゃきれいで！」

何事かのように驚いてとび起きた兄は、上着を着て一緒に外に出てくれた。でも建物のせいでよく見えない。すると兄は

「ここからじゃ見えんき、散歩するかえ。」

とても嬉しかった。寒い冬の夜だったが、二人並んで歩いた。歩いていくうちに星が見えやすくなって立ち止まった。

「あれ、何座？」

「知らん。」

そんな会話。全く知識もないのにただ見ているだけで心が弾んだ。

兄が急に何年も前のまだ小学生だった頃、同級生達と行った室戸合宿の話を始めた。

「他のことはなんちゃ一憶えてないのに、夜寝ころんでひたすら星見よったのは憶えちゃう。」

私は突然、これが自然の力なんだという考えが頭に浮かんだ。

今、私達は便利な機械や場所に囲まれ、恵まれた環境で暮らしている。でも私の通学路には森の入り口が見えるところもある。たまたま森ばかりだったから空がよく見えて、星を見ることができた。森林が作る、きれいな空気を吸いながら、木が揺れ、葉がこすれ合う音を聞きながら、夜空を見上げた何気ない私の行動がその冬の一番の思い出になった。

兄や私のように、知識のない人も、ある日ふと見上げた夜空がとても輝いていることに感動するだろう。何十年に一度の日食の日じゃなくて、本当に普通の日。森林が隣にいて輝く夜空に出会えた。

何気ない私の一日におつかれさまと言ってくれるあの道を今日も私は通って帰る。あの道がずーっとあの道であるために、夜空がいつまでも輝きを失わないために、私達には何ができるだろう。もし、この世に森林がなければ、あの日の感動は味わえなかっただろう。空の輝きに出会えなかっただろう。今の私達の生活は、その事態を巻き起こしかねない。だからこそ、森林と共に生き、環境を守り抜くことが、私達とあの空をつなぐ唯一の方法なのだと思う。

輝く空に出会うために、これからも森林を守っていきたい。

コメント

何気なく見上げる夜空の輝く星に焦点を当てた作品です。お兄さんとの会話も仲の良さがにじみ出ていて、美しさを心に刻む自然の力を、うまく表現しています。感動を与えてくれる夜空の美しさを失わないために、私たちは何をすべきか、を考えさせられる作品でした。

中学校の部

自然の恵み

四万十町立窪川中学校 三年 久保田 聖 那



僕の家は四万十川源流の里山にあり、周囲には見渡す限り山々と水田が広がります。祖父の田は最も身近な遊び場で、物心ついた頃から水田から出たての尻尾付き蛙を虫かごいっぱい集め、大喜びしていたそうです。

祖母の畑ではモグラ穴にぎゅうぎゅう詰まった親分サイズのトノサマガエルを見つけ格闘の末、引っ張り出したこともあります。

春の山では祖父と筍掘り。採れたてを煮物にすると山の香りが最高！この時期にしか味わえない旬の味覚に箸が止まらなくなります。

初夏には父と用水路に通い、ヤゴを掬いました。初めて見た羽化の感動は忘れられません。小さなヤゴの背中がぱっくり割れ、まるで圧縮されたスポンジが膨らむように大きなヤンマが出て来る光景に、目を見張りました。

梅雨の頃には、家族でホタル狩りにも出掛けました。家のそばの谷川を無数の蛍が飛び交い、その光が周囲の水田に映り、一際輝きを増します。時間を忘れ、星が舞い下りて来たような幻想的な世界に引き込まれました。

夏には、川で手長エビを追い掛けました。初めて捕まえたのは、何と指釣りです。石の下のハサミをくすぐると挟まれ、川の主サイズの雄を釣り上げたのです。(びっくり！)と(痛い！)と(嬉しい！)が同時に駆け巡った感動は、脳裏に焼き付いて離れません。

夜にはカブト、クワガタに出合える場所を求め、足繁く通いました。決して真似できない自然の造形美は「かっこいい！」の一言に尽き、僕を魅了して止みませんでした。

タイドプールでは小魚やスズエビ、貝やヤドカリを見つけ楽しみました。岩の一部が急に動き出した時にはびっくり！正体は体中に海草を貼り付けたイソクズガニでした。岩の奥のハサミと魚捕り網で綱引きし、巨大なモクズガニを引っ張り出したこともあります。

海辺にある父方の祖母の家では、堤防釣りも楽しみました。釣り上げたフグが風船のように膨らんだり、大きなガザミを釣り上げたり、家族で大笑いしたことも度々です。

山、田畑、川、海。豊かな自然を身近に育った僕は、各々の場所で四季折々の魅力を満喫し、自然の素晴らしさとともに様々な恵みを実感してきました。自然の中で味わってきた一つ一つの体験が宝物。その感動は、中学生になった今も、僕の心で輝き続けています。

その豊かな自然を支えているのは森林です。きれいな空気を生み出し、水を蓄え、土壌や川や海までも豊かにする森林は、全ての命の源です。環境問題が深刻な昨今。地球温暖化を防ぐ役割も果たす森林は、世界規模で減少傾向にあります。今こそ森林の偉大さを見直し、守る必要があるのではないのでしょうか。

名前も顔も知らない遙か昔から、先祖が大切に守り続けてきてくれた森林。僕達には、それを未来に引き継ぐ責任があると思います。豊かな自然の恵みを、決して絶やさぬように。

コメント

四季折々に自然を満喫して育ったせな君の、自然への思い入れが感じられる作品です。体験そのものが宝物、そして様々な感動が心に残っていると書いていました。その豊かさを支えている森林の意義や保護まで、きちっと構成されていました。

テクノ ア・ラ・カルト

－課題と対応：林道施設災害復旧を例に－

一般社団法人高知県山林協会 技術専門官 長澤佳暁

1 残事業調査

7月豪雨は未曾有の規模で、住宅等における土砂災害や、大小の規模の山地崩壊が発生し、林業基盤である林道、作業道から成る路網及び林業機械の損傷等により、被災数ヶ月を経過しても木材生産体制への影響が話題となっています。更に、交通インフラへの影響も大きく、高知自動車道でも山腹崩壊により自動車道の橋梁部が破損し、地質を中心とした幅広い検討がされました。



さて、林道に関係する災害では7月豪雨を例にあげるまでもなく、降雨＋地質的要因による場合が大半を占めています。数十年確率の降雨規模なので、多い被災箇所数に比例して、被災後2年にまたがる復旧箇所も多くなることが予想されます。したがって、次に述べる残事業調査対象箇所も例年より増加すると思われます。

そこで、今回は災害復旧事務での残事業調査に関する事例を取り上げます。

(1) 残事業調査の内容

林道施設災害復旧事業は被災から3ヵ年で復旧することとなっています。この3ヵ年内においては、被災現場の状況の変化、労務・資材等の価格の変動等により事業の円滑な事業遂行に支障をきたすこともあり、このため林野庁と財務省が合同でこの変動経費を現地（机上）で調査することとされています。（「林道災害復旧事業マニュアル」より）

(2) 残事業調査の対象

対象箇所は暫定法施行令に基づく事業費の決定通知を受けた箇所のうち、次の内容の箇所となっています。（抜粋）

- ・前年及び前々年に発生した災害に係るもの
- ・前年度までに国庫補助金の交付を受けなかった箇所

ところで、従来、平成21年のマニュアル改訂版では、

「※既に割当済みの箇所であっても、その後の変動等により全体の割当額に不足を生じる場合には、必ず当年度以降の分割補助残として、残事業調査の申請をすること。」（原文のまま引用）の記述が追加されています。

この改訂追記に関連する事例を平成13年に担当したので、次のその概要を述べます。

2 残事業調査時における事業費変更箇所の取扱事例

本事例の経緯は、次表のとおりです。

平成12年	平成13年
3月 災害発生	3月 繰越（明許）承認・補助金交付決定
7月 査定	4月 更なる増破に対する測量・調査（単費）
10月 復旧工事着手	6月 残事業調査（当箇所は調査を受けず）
11月 法面上部より増破	7月 調査（4月）結果に基づく変更設計
12月 積雪により復旧工事停止	8月 重要変更協議（17百万円→38百万円）



また、右図にあるように地すべり性崩壊の上方に隣接して高圧線鉄塔があり、早急に増破を抑えないと単なる林道施設災害レベルでは収まらない状況でした。

本事例での問題は次のようになります。

- ①要領上では基本的に残事業調査対象箇所ではなく、更に残事業調査時には変更事業費が未決定
- ②ただ、大幅な変更申請額（前申請時の倍額）なので、見込額として残事業調査に計上すべき

当時の司計課担当者との協議結果は、変更事業費が倍額になりながら残事業調査に計上していなかったこと、更に管轄財務局からの情報によると当該県は重要変更回数及び額が大きいことから、今回の変更協議は受け付けられないということになりました。

そこで、県担当者へは次の対応方針案を提示しました。

- A：現在の交付決定額＋30%以内（＝軽微な変更）での工法検討
- B：県単での治山事業（があれば）との組み合わせ

予算上の制約もあったのか、県からはB案はダメとの返事だったので、Aで対応することとし、当初の法面増破により幅員に余裕ができていたので、L型擁壁等との組合せた「押え盛土」による工法を提案しました。その後、当該県からの情報では押え盛土工法により増破が収まったとのことでした。

3 課題と対応

上記2の項の重要変更にならない対応の前段で、司計課担当者（当時）に「残事業調査総括表の記入要領」の一部改正案を次表のように提示しました。

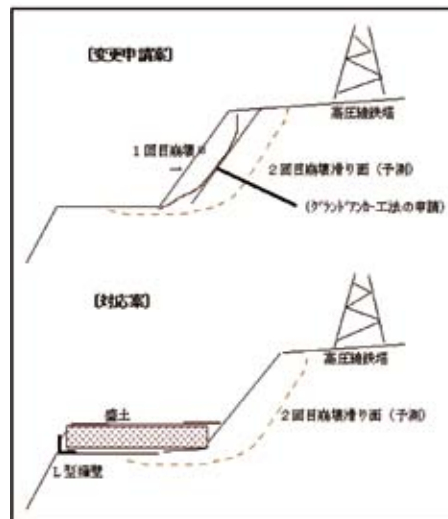
この提示内容は、司計課に対して切り札とはならなかったのですが、前述のとおり「林道災害復旧マニュアル」の平成21年版にはその主旨が反映されました。

(現 行)	(改 正 案)
(1) 平成12年度までに補助金の交付を受けた箇所の事業費精算額又は事業費精算見込額の合計を記入することとする。ただし、当該箇所のうち分割補助、分割施行の箇所がある場合には、当該箇所の事業費精算額又は事業費精算見込額は12年度までに交付を受けた補助金に見合う事業費の額の合計額とする。	(1) 平成12年度までに補助金の交付を受けた箇所の事業費精算額又は事業費精算見込額の合計を記入する。なお、事業費の30%以上の変動が見込まれる箇所の見込事業費は事業費精算見込額に記載することとし、その変更概要を任意様式にて添付することとする。 また、当該箇所のうち分割補助、分割施行の箇所がある場合には、当該箇所の事業費精算額又は事業費精算見込額は12年度までに交付を受けた補助金に見合う事業費の額の合計額とする。

【本事例の対応のポイント】

対応のポイントについて、以下にまとめました。

- ①対応案は複数しかも段階的な処理が可能ないように作成し、対応先の状況に応じて取捨選択できるようにしておく。ただし、運用等規定の解釈に不安がある場合は早めに関係機関（林野庁担当課等）に打診しておく。
- ②本テクノアラカルトで時々触れているように、迅速な対応を心掛けること。場合によっては足（フットワーク）を使い、こちらの「やる気」を相手に暗示させること。
- ③地すべり対策工のように複数ある工法がある場合は、専門の業者から工法の長所短所について現場レベルの情報を入手しておく。本事例では、条件さえ許せば地すべり対策での押え盛土工法が低コストで理屈に合う予備認識があった。



県立甫喜ヶ峰森林公園から

指定管理者 一般社団法人高知県山林協会 森林環境学習チーム長兼甫喜主任 黒津光世

新トイレできました♪

この夏、公園頂上付近アセビの森のトイレが新しく生まれ変わりました。今までの底が見える…トイレではありません。

業者さんの説明を受けている間中、お～、すご～い、きれ～いの言葉しか発していなかったと思います。

正面に向かって右側から男性用、多目的、女性用になっています。男性用トイレにも子どもさんを座らせておける椅子が設置されていますので、パパもゆっくりご利用ください。



多目的トイレには、おむつ交換等ができるよう引っ張り出すとベッド状になる折りたたみシートが設置されています。また、子どもさん用の小さな便器もあります。



多目的トイレ内の様子

女性用トイレ奥の個室には、パタンと倒すと着替えができる台が設置されています。

そのほか、冬期凍結防止のため便器にヒーターがついていて、便器内の水が凍らないようになっています。又キャンプ場横のトイレは、毎年冬になると、便器内や、タンクの水が凍り使用できなくなります。(凍った場合は使用不可としていますが、

何を思ったのか…の方も) また、シャワーも凍り破裂し水が溶けてくると噴水状態になるのでありがたい設備です。ただし、新しいトイレも便座にヒーターはついていませんので、ご覚悟を。



女性用トイレ内の様子

これで、子どもさんに、どうやって使うが～？と聞かれなくなります…どうやって使うち、どうもこうも…!?

☆甫喜ヶ峰森林公園 40 周年記念イベント☆

今年甫喜ヶ峰森林公園は開園 40 周年を迎えました。これを記念して甫喜ヶ峰森林公園の昔の写真やメッセージを展示しています。ぜひ、ご覧ください。また、懐かしい写真があるので掲示して！という方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください！よろしく願いいたします。

《イベント情報》

『アウトドアクッキング』

10月21日(日)

『甫喜ヶ峰フェスティバル 2018』

11月11日(日)

『Trail Jamboree in 甫喜ヶ峰 2018』

12月2日(日)

『初心者のためのキルト教室』

12月9日(日)

『森あそびⅡ』

12月16日(日)



《企画展》

『美しい花のマクロ写真展(仮称)』

10月7日(日)～11月11日(日)

『クリスマスキルト展(仮称)』

11月23日(金・祝)～12月28日(金)

お問い合わせは、甫喜ヶ峰森林公園まで。

電話：0887-57-9007

動 向

平成31年度林野庁公共事業予算概算要求

平成31年の林野庁公共事業予算概算要求額は、一般公共事業費で対前年度比122.0%の219,700百万円で、治山事業費が72,900百万円(120.0%)、森林整備事業費が146,800百万円(122.0%)となっている。

(一社) 高知県山林協会通常総会開催

山林協会は、平成30年度通常総会を8月31日ザ クラウンパレス新阪急高知で開催した。

役員の選任が行われ、上治堂司氏(前馬路村長)が退任し、新理事に上村誠氏(北川村長)が、新監事に山崎出氏(馬路村長)が選任された。(総会の詳細は本文参照)

総会終了後開催された理事会の互選で、新しい会長に大石弘秋氏(仁淀川町長)が、副会長に池田三男氏(津野町長)が選定された。(別表参照)

退任される上治堂司氏は、平成13年に監事に就任、平成18年からは理事に、そして平成22年からは会長理事として17年間に亘り協会の運営と事業の推進にご尽力された。そのご功績は多大なものである。今後は顧問として大所高所からのご指導をお願いする。

(別表)

会 長 理 事	大石 弘秋	仁淀川町長
副 会 長 理 事	池田 三男	津野町長
副 会 長 兼 専 務 理 事	安岡 泰平	正会員以外
常 務 理 事	小野川岳仁	正会員以外
理 事	上村 誠	北川村長
理 事	法光院晶一	香美市長
理 事	和田 守也	土佐町長
理 事	森山 真二	梶原町森林組合長
理 事	中平 正宏	四万十市長
理 事	岡田 順一	大月町長
監 事	小田 保行	越知町長
監 事	山崎 出	馬路村長

表 紙 写 真

撮 影 場 所 香美市土佐山田町県立甫喜ヶ峰森林公園
【紅葉】
写真提供者 小松 俊夫氏



日 程

- 10月20・21日 第1回もくもくエコランド2018 森林環境学習フェア(高知市)
- 11月3日 平成30年森林環境保全活動・治山・林道・体験ツアー(甫喜ヶ峰森林公園他)
- 11月3・4日 四国の森づくりin愛媛2018(愛媛県)
- 11月11日 甫喜ヶ峰フェスティバル2018(甫喜ヶ峰森林公園)
- 11月29日 日本林道協会理事会・総会、治山林道コンクール表彰式(東京都)
- 12月中旬 林野公共事業推進本部設置(永田町ビル)

森のテクノ〈No. 81〉2018年10月15日 発刊

発 行 一般社団法人高知県山林協会

〒780-0046 高知市伊勢崎町8番24号 TEL 088-822-5331 FAX 088-875-7191
<http://www.kochi-sanrin.jp/>